

報 告

2017年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●学校校舎建設

- ・杉本和憲様の寄付により建設されたカバシア郡のアル・ハジ・アジズ中学校の図書館が完成。
- ・甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカバシア郡の学校へ図書館建設費を寄付。

●トイレ寄付

会員有志の方よりカバシア郡の学校へトイレを2基

●その他の寄付

「第45回大田区生活展」様よりカバシア郡の学校へ机とイス20セット

〈シェラレオネ〉

- 12月に宣教クララ修道会のシスター白幡を通じてシェラレオネへの支援として10万円を寄付

〈国内活動〉

- 12月、さいたまの JR浦和駅前、大阪の JR天王寺駅前で街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。



イベント情報

春のチャリティバザー

場所: 本協会ボランティアセンター(伊丹市)
時間: 10:00～14:00



●チャリティバザーにご協力ください●

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバンなどいつでも受け付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務所までご連絡下さい。
☆取り扱っていないもの☆ 大型家具、使用済み食器等

お知らせ

会員総会 3月9日(金) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますので、ご出席下さいますようお願いいたします。

編集後記 先日バングラデシュに行った時の事です。ココナツの木に鉄板が巻かれている事があると聞きました。なぜかと尋ねると「リスが登って未熟な内にココナツをかじってしまう」からだそうです。日本では見かける事の少ない野生のリスも、バングラデシュの農村ではたくさん見ることができます。そして、実はエンゼルホームにも野生のリスがいます。バングラデシュに行った時には是非探してみてください。

2018年 行事予定

1月現在

2月	25日(日)	西宮市国際交流デー	フレンテ西宮	西宮市
4月	11日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	23(月)～30(月)	スタディツアー	バングラデシュ	
6月	3日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
	22(金)～27(水)	スタディツアー	バングラデシュ	
8月	4日(土)～11(土)	ファミリーツアー	バングラデシュ	
10月	17日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市

※その他詳しいことは、事務所までお問い合わせ下さい。

会員募集

本協会の活動は皆様の会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いします。

- 正会員
一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円
- DCEF会員(教育里親)
1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。
郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号
01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしくお願いいたします。

会員数: 一般会員 699名
DCEF会員 738名
(1月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEW

通巻182号
2018.01

謹賀新年



エンゼルホームの子ども達からのお祝いメッセージ

新年おめでとうございます。昨年は国際エンゼル協会創立35周年を迎え、多くの皆様とお祝いの会を開催することができました。35年前わずか数人の有志によって始まった私たちの活動も、年を重ねるごとに協力くださる方々の輪が広がってまいりました。皆様に心より感謝申し上げます。

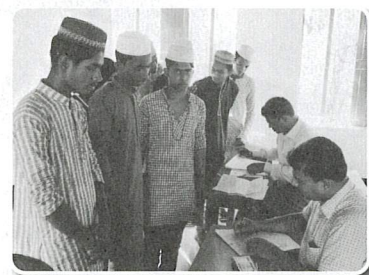
本協会創設者の故川村百合子は「私たちは発展途上国への援助はもちろん大切なことと考えています。それ以上にこうした活動を通して途上国の人々との心の交流を図り、その素朴な人柄の中に感じる心の豊かさやおもいを学んでいくこと。そのことこそ、これまで物質的な豊かさには生きてきた私たち一人ひとりにとって大切なことと考えています。周囲に目を向けてみると、同じアジアの中には援助の手が行き届かなくて苦しんでいる人がまだ大勢います。こうした人々と真の愛を持って関わっていく心を養い、その心を次世代を担う私たちの子や孫に伝えていきたいと願っています。」と何度も私たちに話していました。

今、世界情勢は大きく変わってきています。しかし、このような時こそ国を越えて苦しんでいる人に手をさしのべる気持ちが大切であると思います。私たちは創設の時と変わらず「Love Over The World 世界に愛を」をスローガンに、これからも活動していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子

DCEF（発展途上国教育基金）報告

DCEFでは、バングラデシュなどの子ども達への奨学金支給の他にも、農村部への学校校舎建設や試験費用の支援金支給など様々な支援を行っています。一人でも多くの子ども達が勉強を続けることができるように、これからもご協力よろしくお願いします。



この日（竣工式の日）に、296名の学生に奨学金を支給しました。代表の10名は式典時に、その他の学生は新校舎の教室を利用して、今年度の奨学金を受け取っていました。



竣工式の様子。式典では奨学生を始め、学校の校長先生や地元の名士の方々から感謝の言葉をいただきました。



昨年11月エンゼルホームの子ども14名がJSC試験※を受験しました。

その時DCEFより、一人ひとりに試験に必要な文房具など手渡されました。

※JSC試験…バングラデシュ前期中等教育（8年生）修了時に受ける全国試験

DCEF会員の皆様、
ご協力ありがとうございます。

ファイズウディン・ショルカ・ユニバーサル高校



YURIKOエンゼルス쿨の生徒37名もDCEFより支援金を受け取り、JSC試験を受けました。

YURIKO
エンゼルス쿨
報告

日本紹介



YURIKOエンゼルス쿨の国際文化の授業で、東村事務局長による日本紹介の授業が行われました。参加した生徒達はみんな真剣に聞き入っており、質問コーナーでは積極的に質問する子ども達が印象的でした。授業後に書いた子ども達の感想文を紹介します。

今日は国際文化の授業で東村さんから日本の事を聞かせてもらいました。日本ではバングラデシュと違って4つの季節があり、季節によって色々なイベントを楽しんでいるとの事でした。バングラデシュは冬があまり寒くないので、日本の冬の話がとても良かったです。日本では冬に雪が積もったら子ども達が雪だるまを作ったりして遊んでいるようです。私は雪を見たことがないので、雪遊びの話はとても羨ましかったです。

スポーツは野球が一番人気だそうで、バングラデシュで人気のあるクリケットとちょっと似ているそうです。また、日本には様々な公共交通機関があるそうですが、その中でも世界中に知られているのは新幹線という事でした。とてもスピードが早い乗り物だそうです。

その他にも原爆の話や遊園地の話、教育の話など日本の色々な話を聞かせて頂きありがとうございました。とても楽しかったです。いつか日本に行ってみたいです。

YURIKOエンゼルス쿨9年 カムルン・ナハ

フィリピン
報告

着物ショー

昨年9月9日、北ルソン比日友交協会創立45周年及び北ルソン比日基金創立30周年の記念式典に招待頂き、そこで当協会のボランティアメンバーのプロデュースによる着物ショーを披露しました。当協会より支援を受けている奨学生が色とりどりの着物を着てファッションショーや日本の踊りを踊り、会場を埋め尽くす来場者の方々から割れんばかりの拍手をいただきました。最後には全員でよさこいを踊り、会場が一体となって盛り上がり、無事ショーを終えることができました。



花道で着物を披露する奨学生



会場全員で盛り上がるよさこい



出番を待つ学生や子ども達



浴衣姿で花笠音頭を披露

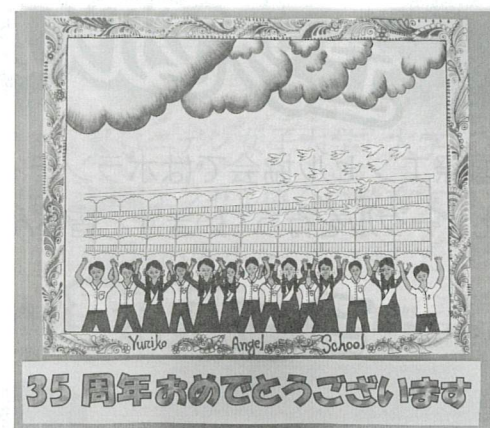


華麗に舞う絵日傘踊り

国際エンゼル協会創立35周年お祝の会

～ありがとう35周年 つながれ広がれエンゼルの愛～

国際エンゼル協会創立35周年お祝の会が、2017年11月23日伊丹シティホテルにおいて開催されました。当日は多くの方々にご出席いただき、会場は35周年を共に祝う晴れやかな場となりました。また、この日は川村百合子前代表の13回目の命日でもあり、会場には色とりどりの花が飾られ華やかな雰囲気になりました。長年支え続けて来られた多くのボランティアの皆様のお力により、本協会の活動が大きく花開き充実していることを実感することができました。心より感謝申し上げます。



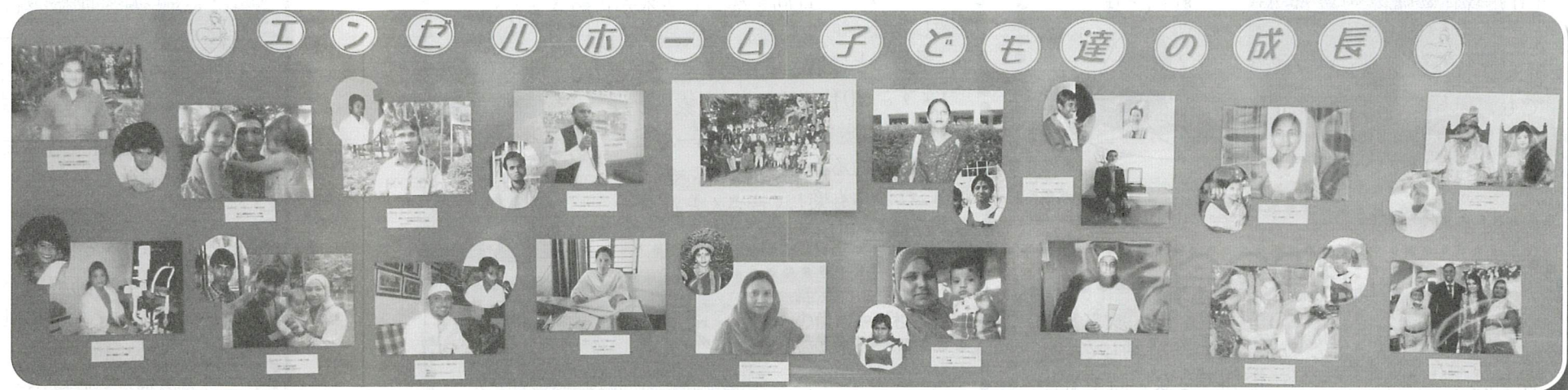
ごあいさつ

今日は国際エンゼル協会創立35周年のお祝の会に遠くからたくさんの方がお越し下さりありがとうございます。母川村百合子と親しくしていただいた方々、そして創立当初からボランティアをしていただいている皆様とお祝いのお会を持つことができとても嬉しく思っています。

11月23日は母の命日でもありますので、昨日は母のお墓まいりに行ってきました。その時、母が亡くなる少し前に私に話したことを思い出しました。「私のような平凡な主婦がよくこんな大きなことができたと思うね。不思議やね。私の人生も良かったかな」と。大変だったことは何も言わなかった母ですが、海外協力の知識など全くなかった人が、ここまで築くのはどれだけの苦勞と努力があったかと思えます。そしてまたどれだけ多くの方のご協力があったことでしょうか。夏の暑い日も冬の寒い日もバングラデシュの子ども達や女性のために、貧しい人々のためにとボランティアして下さる人を見ると、優しい心、あたたかい心をいっぱいいただきます。

バングラデシュに行くとエンゼルホームの子ども達や奨学金をもらっている奨学生達が「川村百合子さんがこの会を作って下さったおかげで私達の人生は変わりました。幸せな道を開くことができました」と言われます。皆さんのお一人おひとりの愛の心が確かに届いています。今日は母もきっとこの会場に来て皆さんと共に感謝していることと思います。本当にありがとうございます。今日をひとつの節としてこれからも母と妹の願っていた優しさあふれる明るい社会作りを目指して共に努力してまいりたいと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 眞理子



ご臨席いただきました来賓の皆様から心あたたまるメッセージをいただきました



元バングラデシュ日本大使
堀口 松城氏



元フィリピン・バギオ名誉総領事
カルロス・B・寺岡氏



マルチアーティスト
大徳寺 昭輝氏



はぐるまの家代表
坂岡 嘉代子氏



本協会理事
早川 住江氏



国際エンゼル協会の35周年のお祝いを皆さんと共に行うことができ、とても喜んでおります。

私達に一番大切なことは何でしょう。母国に、お母さんに、友達に、恋人に、それは愛だと思います。35年前、川村さんはその言葉のもとに国際エンゼル協会の活動を始めました。その言葉を信じて大勢の方々は35年間今日まで長い道を歩み続けてきました。日本を越えて世界の恵まれない子ども達の夢を叶えるため、冬の寒さ、夏の暑さにも負けないで力になって下さいました。そして日本から遠いバングラデシュにもその愛の光が届きました。32年前、川村さんやボランティアの皆さんとの出会いがあり、私の国の恵まれない子ども達のために愛を運び続けて下さいました。バングラデシュに32年間国際エンゼル協会のおかげでたくさんの方々の花を咲かせることができ、胸がいっぱいです。現在地球上で戦争や争いで困っている人々の悲しみや涙を見ていると愛の大切さを感じます。世界の人々にも皆さんの愛の光を見せてあげたいです。バングラデシュの一人の国民としてありがとうございますという気持ちしかお返しできません。皆さんの幸せや健康を祈っております。これからもよろしくお願いいたします。

バングラデシュ 現地責任者 アジズル・バリ



テーブル対抗クイズ



ボランティアの皆さんによる活動紹介



混声合唱団「エンゼル」によるコーラス

エンゼルの文化サークル紹介

国際エンゼル協会ではボランティア活動の他にボランティアのメンバーが集まって様々な文化サークルを行っています。皆さん親睦を図りながらボランティアの合間に楽しんでいます。

ヨーガ教室

毎週月曜日、一週間の始まりに身体と呼吸と心を調えるヨーガを行っています。軽やかな身体と心でいつまでも元気にボランティアが出来るようにと、30年以上も前から続けています。



コーラス

エンゼルのコーラスは結成されて12年目に入りました。歌うことが大好きなメンバーが集まり、数多いバザーの合間を縫って基本から教えてもらい、楽しみながら少し難しい曲にも取り組んでいます。

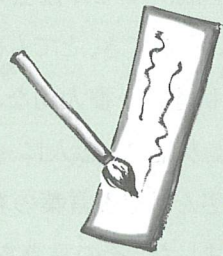
歌うことは若さを保つ秘訣でもあります。20代から80代の家族のようなメンバーで、温かいハーモニーが届けられるよう頑張っています。これからも楽しく皆さんと続けていきたいと思っています。



俳句の会

俳句の会は月に一度、17~18人で活動しています。皆さんとても熱心で、参加できない時でも作品を預けていかれるほどです。初めは季語の無い句や複数入っている句などに皆で大爆笑したりしていましたが、最近ではどの句に特選や準特選をつけようかと迷ってしまうほど皆さん上達されています。

これからも笑いの絶えない、楽しい句会にしたいと思います。
「千年の 秘湯を抱き 山眠る」



お花教室

四季折々の季節の花を使って、月一回フラワーアレンジメントの教室をしています。参加された皆さん各々の個性を生かしながら、楽しくお花を活かしています。お雛様、子供の日、クリスマスなど季節のいろんな行事に合わせて素敵なアレンジメントができあがります。是非皆さまも日々の暮らしの中にお花を取り入れて、心豊かなひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。



サリーの着付け

バングラデシュの民族衣装「サリー」は、どんな体型の人でも一枚の布で身に着ける事ができます。私達は衣服から異文化体験をしてもらうため、バングラデシュフェア・楽しいボランティアひろばにに向けてサリーの着付けの練習をしています。

着付け体験をされた方は、サリーを着るとまるで花が咲いた様な明るい表情をされます。その笑顔を見ることが私達の喜びであり、少しでも多くの方にサリーを体験をしてもらえるよう、着付けが出来る人を増やしていきたいです。



着物着付教室

毎月1回の着物着付教室では、お嫁入りの時親に揃えてもらった着物を持って来る人、バザーで買い揃えた着物を持って来る人と様々ですが、楽しく和やかに習っています。皆さん目標を持って頑張っており、回を重ねる程に少しずつ身に付いてきています。今年は日本の伝統文化である着物の勉強も取り入れながら楽しくやっていきたいです。



DCEFだより

奨学生からの便り — バングラデシュ



皆さん、こんにちは。私の名前はニシャット・スルタナです。私はエデン女子大学・大学院2年生で経済学を学んでいます。私は大学2年生だった2014年に国際エンゼル協会の教育支援に出会い、今日迄奨学金をいただきながら勉強しています。父は学校の先生をしていましたが定年後は収入もなく、私達3人の子どもを勉強させるのが大変になりました。そんな時に国際エンゼル協会との出会いがあり、本当に幸運に恵まれたと思っています。

大学院を卒業したら父のように学校の先生になりたいと思っています。そして、私の仕事を通してバングラデシュの学生達の支援が出来たら良いと思っています。国際エンゼル協会の教育支援に大変感謝しています。私にとって国際エンゼル協会は私の将来に光を灯してくれる存在です。本当にありがとうございました。



ニシャット・スルタナ
(エデン女子大学院2年生)

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

No.26

エンゼルホームの子ども紹介
ミラジュくん
Md.Miraz Hossain
(12才)



ミラジュ君は1才の時に父さんを亡くしました。彼のお母さんは、叔父さんから経済的援助を受けながら彼と妹の2人の子どもの育てていました。しかし次第に生活が厳しくなり、2013年からエンゼルホームで生活することになりました。現在YURIKOエンゼルスクールの8年生です。

◎今回ミラジュ君に色々質問してみました。

Q好きな授業…農業の実習

Q好きなスポーツ…サッカー、クリケット、バドミントン

Q将来の夢…サッカー選手

Q学校から帰っていつもしていること…エンゼルホームの子ども達とスポーツ

Q最近一番嬉しかったこと…アルゼンチンがサッカーワールドカップ出場権を得たこと

スポーツが大好きで活発なミラジュ君、これからも夢に向かって勉強にスポーツに頑張ってください。